

日常生活と習慣 - 2

アメリカは基本的に合理主義国家であり、したがってアメリカ人は不合理な事は随時修正し、公平且つ平等な権利を常に要求すると紹介した。しかし、多くのアメリカ人はアメリカは世界で最も進んだ政治機構を持っており、もっとも発達した工業国であり、且つ軍事的にも最も強力な国家であると信じている。プライドの高い事もあるが、アメリカ人は平均して他の国、又は他の民族から学ぼうとする態度はないし、特に物真似を嫌う民族でもある。英語が世界共通語とされている現在、英語以外の言語に精通しようとする態度は全くなく、英語のみで世界と通じ合おうとしているのは昔も今も変わりはない。

その英語であるが、標準アメリカ英語はミシガン州で話されている英語と言われている。ニューイングランド地方のボストン地域の英語はイギリス英語のなごりが残っていて、会話もパキパキと早い。ニューヨーク・アクセントとかニューヨーク近郊のブロンク・アクセントがあると聞いていたが私には聞き分ける事が出来なかった。首都ワシントンから少し南部に下がると、いわゆる南部アクセントがあり、特にノースカロライナ州やジョージア州に行くと、一般市民の話し方が緩やかで遅くなり、語尾が上がったりで人懐かしく聞こえてくる。又ルイジアナ州にはとルイジアナ・アクセントがあり、独特のイントネーションをもっている。又、ヴァージニア州西部のアパラチアン山脈沿いにはアパラチアン・アクセントがあり、世界的なルーレイ鍾乳洞を見に行った時、若い美人の白人現地案内者が説明してくれたが残念な事に何も聞き取れなかった。ちなみにオーストラリアやニュージーランドで話されている英語は標準アメリカ英語からは程遠い。

アメリカ英語についてであるが、アメリカ黒人はいたるところで独特、且つ極端な簡略会話英語をあみだして来た為、私がアメリカ上陸後、彼ら同士の会話の理解に苦しんだ。特に南部諸州へ行くところの現象が著しい。感覚的に津軽弁と類似してると思った。又、最近ではヒスパニック系統の人口が増えている為にスペイン語が流通しだし、地域によっては選挙投票の要綱がスペイン語でも書かれるようになった。勿論運転免許試験もスペイン語で受けられるようになった。そればかりではない。公立学校で10%以上の生徒がある外国語を母国語とする環境では、その外国語で全科目を指導しなければならない、とする州もあり、アメリカの教育界に大きな問題を呈している。

小樽市はニュージーランドのダニーデン市と姉妹都市関係を結んでおり、色々な文化交流がある。又小樽市が英語教育の一旦としてニュージーランドから教師を招き英語教育に携わらせている事は多くの面で肯定的ではあるが、ニュージーランド英語についての批評が教育者から全くないのは実に不思議な事である。

アメリカには徴兵制度はない。アフガニスタンやイラクで戦闘の任務にあるアメリカ兵は100%志願兵である。そればかりでなく、国防省からの膨大な契約でアメリカ兵以外に相当数のアメリカ市民が危険を冒してアフガニスタンやイラクで戦闘の任務についているのも事実である。彼らの所得は想像を絶するほど膨大である。生命をかけているのである。妥当と言えば妥当であるかも知れない。

私がワシントン近郊に住んでいた頃、世界銀行 (World Bank) に勤務していた日本人家族と懇意になった。彼は永住でアメリカに在住していた。世界銀行と3年の契約でサウジアラビアへ単身赴任した。単なるコンピューター技師にすぎなかったが、世銀からの彼の給料は全額家族に支払われ、彼はサウジアラビアで豪華な家屋が与えられ、且つ生活費が支払われた。尚、サウジアラビア勤務手当がとてつもなく膨大で、3年後無事にアメリカに戻って来た彼はワシントン近郊のメリーランド州シルヴァースプリング市に現金で豪邸を購入した。中近東地域勤務は危険と見なされ、したがってこの地域への在住費は天文学的な数字である。アメリカにはこの様な裏社会がウヨウヨ存在してる。

アメリカは大体地理的にイデオロギー（保守、革新）別に州分けが出来る。東部は革新州、中西部は保守州、南部は革新州、西部は保守州の様に区分け出来るが、必ずしもいつもの選挙結果がそうなるとは限らない。しかし歴史的に何十年も革新州（又は保守州）であったものが急変すると、その影響は多大である。又、アメリカでは日本人の感覚では考えられない法案が政治的思想に関係なく州法として成立する事がある。例えば同姓結婚を法的に認可している州が10州以上あるからだ。妊娠中絶法、鉄砲所持法も州間では異なる。これらはいずれ連邦最高裁判所が決める事であるが、連邦最高裁は各々の州法が憲法違反か、合憲かを決めるだけであり、これらは長引き、市民の習慣に影響をもたらしている。

アメリカにおける男女間の愛について紹介してみたい。まず、アメリカの女性は失恋したからと云って、自殺するなど考えない。失恋は日常茶飯事の事だからである。しかし、日本の女が男との別れ際に「あなたを愛してます。でも私が貴方から別れる事によって貴方が幸福になれるのなら、別れます。貴方が幸せになれるのでしたら私はそれで満足です」と言うらしいのですが、アメリカ女性にその様な論法は通じない。日本の女性はその後、うつ病になったり、ひどい時には自殺まですると云う。アメリカの女は「なぜ?」、「私の何処が嫌なの?」とかなりしつこく食い下がってくる。自分の恋人が別の男に取られて、満足する女が何処の世界にしようか? その様な美德倫理はアメリカ人にはない。しかし、諦めはかなり早く来るし、したがって余りうつ病的にもならない様だ。

アメリカの企業、公務員の給料日は二週間毎の金曜日。社会保障金の支払日も月毎であるが個人個人で異なる為、日本の様に年金支払日はいたるところが混雑する事はない。特に年金支払日がセールの日と重なると、長崎屋は歩く隙間もなくなる。ノロノロの婆ちゃん達が多く、私の目には異様に映るが、反面、私自身まだまだ若いと思ひ、将来はまだ長い、と感じている。